

学位授与番号：乙 3 1 3 8 号

氏 名：伊藤 隆介

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 28 年 2 月 10 日

学位論文名：

肝細胞癌における Receptor for advanced glycation end products (RAGE)発現  
の意義

主論文名：

Prognostic significance of receptor for advanced glycation end products  
(RAGE) expression in hepatocellular carcinoma after hepatectomy.

(肝細胞癌における Receptor for advanced glycation end products (RAGE)発現  
の意義)

学位審査委員長：教授 相羽恵介

学位審査委員：教授 池上雅博 教授 相澤良夫

# 論文要旨

論文提出者名	伊藤 隆介	指導教授名	矢永 勝彦
<p>主論文題名</p> <p>Prognostic significance of receptor for advanced glycation end products (RAGE) expression in hepatocellular carcinoma after hepatectomy (肝細胞癌における Receptor for advanced glycation end products (RAGE)発現の意義) Ito Ryusuke, Ishii Yuji, Wakiyama Shigeki, Shiba Hiroaki, Fujioka Shuichi, Misawa Takeyuki, Ishida Yuichi, Hano Hiroshi, Yanaga Katsuhiko Journal of Surgical Research (2014) ; 192 : 503-508</p> <p>[目的] 近年、糖化最終産物受容体 ; Receptor for advanced glycation end products (RAGE) が悪性腫瘍における癌の進展に関与する膜型受容体として着目されている。今回、肝細胞癌切除後の治療予後における RAGE 発現の意義を検討した。</p> <p>[方法・対象] 2003 年 1 月から 2007 年 12 月までの期間に東京慈恵会医科大学外科で行われた肝細胞癌に対する初回肝切除 65 例。切除肝細胞癌における RAGE 発現に関して、臨床病理学的特徴、臨床的予後（生存率、無再発生存率）との関連を解析した。</p> <p>[結果] 肝細胞癌における RAGE 発現は 46 例（70.8%）に認め、分化度との関連を認めた（低分化 vs. 中分化, <math>p=0.021</math>）。5 年生存率（OS）は RAGE 陽性で 72%、陰性で 94%、5 年無再発生存率（DFS）はそれぞれ 29%、55%であり、OS、DFS 共に有意差を認めた（<math>p=0.018</math>、<math>0.031</math>）。多変量解析では RAGE が OS、DFS 共に独立した予後予測因子であった（<math>p=0.048</math>、<math>0.032</math>）</p> <p>[結語] 肝細胞癌における RAGE 発現と肝切除後の予後との関連を初めて示した。また、RAGE による作用発現の抑制が肝細胞癌に対する新規治療となる可能性が示唆された。</p>			